子どもの発達・学習研究センター年報　第 3 巻　xx~xx 頁（2017 年 3 月）

子どもは「ほめ」をどのようにとらえているのか#

−小学生における性差・発達差に焦点を当てて−

重永　大地*　田中　大介**

How do children conceptualize several kinds of positive verbal feedback?

Gender and developmental differences in elementary school children

SHIGENAGA Daichi*　TANAKA Daisuke**

キーワード：ほめ，概念形成，性差，小学生，発達的変化
Key Words: Positive verbal feedback, Concept formation, Gender difference, Elementary school students, Developmental change

Ⅰ．問題と目的

「ほめる」という行為は，心理学においては基礎的な行動原理として，いわゆる「強化」のプロセスによって説明される（Hull, 1960）。一方で，教育に関連した実践的な「ほめ」についても現場に即した文脈の中で様々な角度から研究されている。そうした研究としては，例えば，「ほめ」と動機づけとの関連（たとえば Deci，1971；大宮・松田，1987），「ほめ」と自尊感情との関連（たとえば蓑輪・向井，2003；兄井・須崎・横山，2013）などが挙げられる。

動機づけとの関連において Deci（1971）は，大学生を対象に，課題達成後に与えられる報酬の種類による内発的動機づけへの影響について検討し，金銭などの物質的報酬は，課題に対する内発的動機づけを低下させ，ほめ言葉などの言語的報酬は，課題に対する内発的動機づけを高めると報告している。また，大宮・松田（1987）は，小学校低学年を対象に，教師が用いる言語による成果のフィードバック，成果に応じて与えられる賞状，成果に応じて与えられる言語と身体接触による賞賛などの外的強化が子どもの内発的動機づけに及ぼす影響について検討した。その結果，言語による成果のフィードバックは，与える内容や時期によって動機づけに及ぼす影響が異なること，成果に応じて与えられる賞状や賞賛は，動機づけを低下させることを示した。さらに高崎（2000）は，就学前児を対象に言語的報酬に焦点を当て，達成場面において，親や保護者から受けているフィードバックの差異による失敗経験後の反応パターンについて検討している。その結果，失敗経験をした際に，承認フィードバックを受けた子どもは，失敗した課題に挑戦する傾向にあり，非承認フィードバックを受けた子どもは，失敗した課題を避け，成功した課題を選ぶ傾向にあることを示している。

#本論文は平成 28 年度に第一著者が卒業論文として鳥取大学地域学部に提出したものを第二著者が修正を加えたものである。

*　鳥取大学地域学部地域教育学科
**　鳥取大学地域学部・子どもの発達・学習研究センター

自尊感情との関連としては，蓑輪・向井（2003）は，ほめ言葉を結果評価・努力評価・人格評価といった肯定的なほめ言葉と過剰欲求・他者比較・当然といった否定的なほめ言葉に分け，小学校高学年を対象に，それぞれの経験頻度と自尊感情との関連について検討した。その結果，結果評価・努力評価・人格評価といった肯定的なほめ言葉を多く経験することにより，自尊感情は高まることを示している。また，兄井・須崎・横山（2013）は，3 年間継続的に小学生と中学生を対象に調査を行い，子どもの自尊感情と生活の在り方の関連について検討した。その結果，保護者からほめられることが子どもの自尊感情に影響を与えており，中学生よりも小学生の方が，保護者からほめられたときに自尊感情は高まることを示している。また，子どもの自尊感情は，お手伝いや授業中の発言の頻度に影響に与えており，自尊感情が高いほどお手伝いや授業中の発言の頻度は高まることを示している。性差を念頭にした研究として Felson & Zielinski（1989）は，5 年生～8 年生の子どもを対象に，両親のサポートと自尊感情との関連について男女別で分析を行った結果，男女とも両親からほめられる頻度が多いほど，自尊感情が高くなることを示した。

このように，「ほめ」が及ぼす影響について多くの研究が行われ，さまざまな影響が明らかにされてきた。しかし，これらの研究の多くは，「ほめ」を強化子としてとらえる教師・保護者・実験者などのほめ手側の視点から行われてきたもの（青木，2005）であり，ほめ手側の視点から行われたこれらの研究には，いくつかの問題点が指摘できる。

「ほめ手視点」からの脱却

ほめ手側の視点から行われた研究には，大きく分けて 2 つの問題点が指摘できる。まず，受け手側の「ほめ」のとらえ方について扱っていないということである。これまで行われてきた研究の多くは，「ほめ」が及ぼす影響について検討したものである。これらの研究では，「ほめ」をほめ手による受け手への一方的な働きかけだととらえており，受け手側は影響を受けるだけの存在という位置づけになっている。そのため，受け手側が「ほめ」をどのようにとらえているのかということは重要視されてこなかった。しかし，ほめ手側と受け手側の「ほめ」のとらえ方が常に同じとは限らない。ほめ手側の意図と受け手側のとらえ方が異なるということも起こりうる。大野（2005）は，受け手に対して肯定的評価を伝えようとする「ほめ意図」のフィードバックだけでなく，依頼や要求，励まし，話題転換，皮肉，からかいなどのほめ手がほめることを意図していない「別意図」のフィードバックも受け手は「ほめ」として解釈する場合があることを示している。また，青木（2005）は，ほめるという行動はほめ手から受け手へ一方的に行われるものではなく，受け手がほめられた経験として受け止めなければ成立しないと述べている。したがって，「ほめ」について研究する場合，受け手側の「ほめ」のとらえ方についても研究していく必要があるといえる。

加えて，土橋・戸塚・矢部（1992）は，小学校 4 年生～6 年生を対象に，今までで 1 番うれしかったほめられ方についてアンケート調査を行った。その結果，ほめられた場面として，お手伝い場面を報告した子どもは，4 年生よりも 6 年生の方が多かったことを示している。また，ほめられてうれしかったことがないと回答した子どもは，女児よりも男児の方が多かったことを示している。これらの結果から，性別や学年の違いによって，ほめられたときの「ほめ」のとらえ方が異なっていることが考えられる。また，青木（2005）は，就学前児と小学校 1 年生を対象に，ほめられたエピソードを収集し，子どもがどのようなときにほめられたと受け止めているのかについて調査を行った。その結果，就学前児は“すごい”などの賞賛の「ほめ」，1 年生は“ありがとう”などの愛情の「ほめ」を多く報告することを示している。

ほめられたエピソードとして報告されるものにこのような差異が生じる理由として，「言葉の理解の発達」，あるいは「心の理論」の獲得により，他者の発言の背景をより正確に推測出来るようになるに従って，子どもの性別・年齢によって「ほめ」のとらえ方が異なっていることが考えられる。したがって，受け手側の「ほめ」のとらえ方について研究する場合，一定の性別・年齢の子どもを対象とするのではなく，異なった性別・年齢の子どもを対象とし，性差・発達差について検討していく必要がある。

二点目としては従来の研究が主に，「ほめられ方」と「ほめられた内容」についてしか取り上げておらず，「ほめてくれた人」や「ほめられた場面」については取り上げていないということである。青木（2011）は，小学 1 年生を対象に，ほめられたときに子どもが「ほめ」のどのような要因を重要視しているのかについて検討し，子どもはほめられたときに「ほめられ方」および「ほめられた内容」だけではなく，「ほめてくれた人」や「ほめられた場面」についても重要視していることを示した。このことから，子どもの「ほめ」のとらえ方には，これら 2 点も重要であると考えられる。

「ほめてくれた人」という点に関して，従来の研究で設定されるほめ手の多くは，教師や親などの上位者が多い（たとえば高崎，2000；桜井，1984）。しかし，日常生活で行われている「ほめる」という行為は，教師や親などの上位者から行われるものだけではない。大野（2005）は，テレビドラマと映画のシナリオ計 104 話を資料として，864 の「ほめ」の談話をシナリオのシーン単位で収集し，人間関係によって「ほめ」を分類し，人間関係における「ほめ」への応答の特徴を分析している。その結果，収集された「ほめ」の談話のうち最も多かったものは，ほめ手と受け手が対等な立場の者同士での「ほめ」（390 話）であり，上位者から下位者への「ほめ」は全体の 3 割（290 話）であった。また，下位者から上位者への「ほめ」も全体の 2 割（178 話）あることを示している。この収集された「ほめ」の談話から，ほめるという行為は，上位者から下位者に対してだけ生じる行為ではないことが明らかになる。また，大野（2005）は，ほめ手との関係性によって「ほめ」が受け手に及ぼす影響に差異があることを示している。したがって，「ほめ」に関する研究においてほめ手を設定する場合，教師や親などの上位者だけでなく，様々な立場の他者をほめ手として設定し，ほめ手との関係性による「ほめ」のとらえ方の差異について検討していく必要がある。

「ほめ」を研究する際の発達的視点の重要性

児童期は，生活環境の変化や人間関係の広がりにより，子どもの社会性や対人関係の変化において非常に大きな意味を持つ。幼児期には接する時間の永さという観点から，または愛着という観点から，重要な位置を占めていた親の存在が，児童期には相対的に小さくなる。つまり，児童期の子どもの社会性は，主に仲間との遊びの場面を通して培われていくといえる。児童期は，学校の休憩時間や放課後に，仲間と一緒に遊ぶ連合遊びや，目的を持って何かを一緒に作ったり，ルールのあるゲームをしたりする共同遊びなどの多様な遊びの枠組みの中で，自分の役割や責任，協力，思いやりの大切さなどを学び，社会的ルールや社会的スキルを身に付けていく時期である。

児童期の社会性の発達には，「心の理論」の発達も大きく関わっているといえる。「心の理論」とは，「自己や他者の心的状態を推測したり理解したりするための認知的枠組みのこと」（青木・戸田，2009）であり、チンパンジーなどの霊長類が行う，他の仲間の心の状態を推測しているかのような行動を説明するために導出された概念である。この概念を人間の発達研究に取り入れるために，「誤信念課題」という課題が考案された。この課題は自分だけが知りえる“意外な”事実を他者が「知っているはずがない」と正しく判断できるかを問う課題である。幼児期から児童期の子どもを対象に，「心の理論」の獲得状況を調べる研究が行われ，多くの子どもは，遅くとも 6～7 歳までには「心の理論」を獲得することがわかっている。こうした「こころの理論」の獲得を基盤に，記憶容量の量的増大，あるいは思考過程の質的変化といった様々な認知能力の変化，さらには豊かな共感性・情動体験があいまって，より複雑な自己理解、他者理解ができるようになる時期が児童期であるといえる。こうしたことを踏まえると，児童期においてもその前後によって，「ほめ」のとらえ方が変わってくる可能性が考えられる。

これまでの議論をまとめると，心理学の分野において，「ほめ」に関する多くの研究が行われてきたが，多くの研究は「ほめ」が及ぼす影響を検討したものであり，子どもの視点から見た「ほめ」のとらえ方について検討した研究は行われてこなかった。そのため，本研究では，受け手である子どもが，「ほめ」をどのようにとらえているのかについて，性差・発達差を念頭に検討する。より具体的には，小学校 1 年生と 5 年生を対象にインタビューを行い，「ほめ」のとらえ方について，①ほめられ方やほめられた内容をどのようにとらえているのか，②ほめてくれた人をどのようにとらえているか，③何

を「ほめ」としてとらえているのかという３つの視点から性差・発達差を検討する。

II. 方法

1.調査協力者・時期

鳥取県内の小学校の 1 年生 10 人（男児 5 人・女児 5 人），5 年生 10 人（男児 5 人・女児 5 人）の計 20 人を対象とした。調査協力者の選定においては，最初に学級担任を通じて調査内容を説明する調査協力依頼のプリントを各家庭に配布した。保護者が調査協力に了承した児童の中から，学級担任に対象児童を選んでもらった。また，インタビューを行う前に，調査への参加の意思を確認し，参加は自由意志に基づくものであり強制ではないこと，途中で協力をやめても不利益は生じないことを，対象児にわかりやすく説明し合意を確認したうえで実施した。調査は 2017 年 1 月 16 日から 27 日にかけて，授業間の休み時間などを利用して行われた。

2.手続き

本研究では,「ほめ」の内容について，実際に子どもから報告されたほめられたエピソード（土橋他，1992；青木，2005）を参考に「ほめ」を分類し，「愛情」,「能力」,「努力」,「性格」,「物質」という 5 つの「ほめ」の内容を設定した。カテゴリーの定義と具体例は Table 1 の通りであった。

Table 1　「ほめ」の内容の定義と具体例

カテゴリー	定義と具体例
「愛情」	暖かい表現で間接的に「良い」と伝えているもの
	・ありがとう　・わらってくれる
「能力」	能力について肯定的に伝えているもの
	・すごい　・じょうず
「努力」	これまでの努力について肯定的に伝えているもの
	・よくがんばったね　・～できるようになったね
「性格」	性格について肯定的に伝えているもの
	・やさしいね　・たよりになるね
「物質」	金銭、物品
	・おかねをもらう　・しょうじょうをもらう

「ほめ手」については，設定されるほめ手の多くは教師や親などの上位者である（たとえば高崎，2000；桜井，1984）という問題点を踏まえ，本研究では，上位者に加え，対等の他者，下位者もほめ手として設定した。具体的には，上位者（親・教師），対等の他者（友だち），下位者（下級生）という 3 つの立場の 4 人の他者をほめ手として設定した。

インタビュー調査は，インタビュアーと子どもが 1 対 1 で行った。インタビューは，朝読書の時間，放課後などに行い，1 人当たり 15 分程度とした。まず，質問の答えには正解がないということ，思いついたものをすべて教えてほしいということ，答えにくい質問は分からないと言ってくれても構わないということを子どもに説明してからインタビューを開始した。インタビュー中の発言は発言者がわかる形ではインタビュアー以外の人が聞くことはないことを説明し，許可が得られた子どものみ，イ

ンタビュー内容を IC レコーダーに録音した。録音の許可が得られなかった子どもの発言は，インタビュアーがノートに書き取って記録した。

まず，ほめられ方やほめてくれた内容をどのようにとらえているのかについて，「愛情」，「能力」，「努力」，「性格」，「物質」という 5 つの「ほめ」に関する具体例とその具体例に関連したイラストを，グループごとにまとめて子どもに提示した（実際に用いた刺激は巻末の付録 2 を参照のこと）。その上で，「ここにいろいろな言葉と絵がグループごとに分けて置いてあります。この 5 つを何かいいことをしたり，頑張ったときに，自分がしてもらったらうれしいと思う順番に並べてください。」と伝え，並べてもらった。また，並べてもらった後に「どうして～が 1 番うれしいと思いましたか？」と理由を尋ねた。

次に，ほめてくれた人をどのようにとらえているのかについて，先述した「ほめ」の具体例とイラストを再び提示した後，「親」，「先生」，「友だち」，「下級生」と書かれた 4 枚のカードを子どもに渡し，「ここに，親，先生，友だち，下級生と書いてある 4 枚のカードがあります。この 4 人の人に，～してもらったときに，してもらったらうれしい思う順番に 4 人の人を並べてください。」と伝え，「ほめ」の種類ごとに並べてもらった。並べ終わった後，「どうして～が 1 番うれしいと思いましたか？」と理由を尋ねた。ただし，「物質」の「ほめ」については，「友だち」，「下級生」から与えられることは少ないと考え，「親」，「先生」のみを選択肢とした。また，1 年生にとって「親」，「下級生」という言葉は難しいと考え，考えやすいように「おうちのひと」，「としたのともだち」と言い換えて実施した。

最後に，何を「ほめ」としてとらえているのかについて，まず，「ほめるという言葉は知っていますか？どんな意味か教えてくれますか？」と尋ね，子どもがほめるという言葉をどのように理解しているのか確認した。本研究では「ほめ」に関する子どもたちの概念の形成を検討するため，この段階までは「ほめ」，あるいは「ほめる」といった言葉は用いずに実施した。そしてこの段階で初めて，「ほめる」という言葉が示された。ついで，より具体的に子どもが何を「ほめ」としてとらえているのかについて調べるために，①「誰からほめてもらいますか？」，②「どんなときにほめてもらいますか？」，③「どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」，④「ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」と順番に尋ね，それぞれの質問について，思いついたものを思いつくだけ発言してもらった。この際，子どもに自由に考えてもらうために，インタビュアーから具体例の提示は行わなかった。

III. 結果

本研究のインタビュー結果に関しては，録音したものをすべて文字に起こし，資料として載せた（付録 1）。

1. ほめられ方やほめられた内容をどのようにとらえているのか

うれしいと思う順番に並べてもらった 5 つの「ほめ」の内容の順位を，1 位（5 点），2 位（4 点），3 位（3 点），4 位（２点），5 位（1 点）と得点化した。この得点を各参加者における「ほめ」の内容毎の「ほめ」得点とした。これらの「ほめ」得点を用いて，「愛情」，「能力」，「努力」，「性格」，「物質」の内容ごとに 2 要因（性別（男・女）×学年（1 年・5 年））の分散分析を行った。全ての内容において，性差要因，学年差要因，それらの交互作用に有意差はなかった。分散分析を用いることは変数の独立性（順位であること）からも，またデータ数からも，さらには繰り返し実施していることも含めて本来的には適切ではないがインタビュー結果の数量化の試みとして実施した。ここでは結果として，性別や発達的変化に基づく一貫した傾向を見出すことはできなかった。

「愛情」が一番うれしいと回答した（「ほめ」得点が 5 点だった）子どもの理由は以下の通りであった。発言の冒頭の数字は学年，丸の中の数字は付録内の協力者番号を，M，F は性別でそれぞれ男児，女児を示す。

1－①M *「どうしてありがとうや笑ってくれるが一番うれしいと思いましたか？」――「んー，いいことをしたから。」*

―――「いいことをしたときは，これを言ってもらったときが1番うれしい？」―――「うん。」
5－②F*「どうしてありがとうや笑ってくれるが1番うれしいと思いましたか？」―――「ありがとうって言ってくれると，自分でもやってよかったなって思えるから。」*

「能力」が一番うれしいと回答した子どもの理由は以下の通りであった。

1－①F*「どうしてすごいや上手が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，上手に駒とかが回せたときとかに，言ってもらったらうれしいから。」*
5－③M*「どうしてすごいや上手が1番うれしいと思いましたか？―――「このすごいや上手っていうのは，認めてもらえる気がするから。」*
5－④M*「どうしてすごいや上手が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんかやったりしたら1番できているんだなって思えるから。」*

「努力」が一番うれしいと回答した子どもの理由は以下の通りであった。

1－②M*「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねが1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，自分の頑張りを見てくれてるって分かるからうれしい。」*
1－⑤M*「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねが1番うれしいと思いましたか？」―――「いっつも，トイレの掃除とか頑張ってて，そういうのをほめてもらったら1番うれしいから。」*
1－④F*「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねが1番うれしいと思いましたか？」―――「自分のできないことができるようになったり，最後まで頑張ったりしてきたことを，言葉で言ってもらうのが1番うれしい。」*
1－⑤F*「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねが1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，自分が頑張ったこととかに，言ってもらうのが1番うれしいから。」*
5－③F*「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねが1番うれしいと思いましたか？」―――「え，なんか頑張ったときに，友だちからほめてもらうのが1番うれしいから。」*
5－④F*「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねがうれしいが1番うれしいと思いましたか？」―――「え，なんだろう。1番やってよかったと思うから。」*
5－⑤F*「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねが1番うれしいと思いましたか？」―――「やっぱり，この中で，1番ほめてもらってるなって思えるから1番うれしい。」*

「性格」が一番うれしいと回答した子どもの理由は以下の通りであった。

1－③F*「どうして頼りになるねや優しいねが1番うれしいと思いましたか？」―――「えっと，頼りになるねは，頑張ったりして，言うのを，ほめてもらうように感じるからうれしい。」*
5－①M*「どうして頼りになるねや優しいねが1番うれしいと思いましたか？」―――「まあ，言われると，頼りにされてると思うから。」*
5－②M*「どうして頼りになるねや優しいねが1番うれしいと思いましたか？」―――「えっとこう，頼りになるねとか，優しいねっていうのは，自分がまた，もっと頼りになるようにしたいとか，優しいようにしたりとかって，努力したりすることができるしうれしいから。」*
5－①F*「どうして頼りになるねや優しいねが1番うれしいと思いましたか？」―――「えっと，なんだろうな，なんか，人が，自分に対してなんか1番いい感じで言ってくれてるって思うから。」*

最後に「物質」が一番うれしいと回答した子どもの理由は以下の通りであった。

1－③M*「どうして物をもらったときが1番うれしいと思いましたか？」―――「お金をもらうから。」―――「じゃあもらえるものが，お金じゃなくて賞状だったときはどう？」―――「賞状でも1番うれしい。」*
1－④M*「どうして物をもらったときが1番うれしいと思いましたか？」―――「すごいことになるかもしれないから。」―――「すごいことってどんなこと？」―――「わからん。」*

1－②F*「どうしてお金をもらうや賞状をもらうが1番うれしいと思いましたか？」――「賞状をもらうときに，帰ってからおうちの人にすごかったねって言われるから。」*
5－⑤M*「どうして物をもらったときが1番うれしいと思いましたか？」――「物はなくならないし，ずっと残るから言葉を言ってもらうより物質の方がうれしい。」*

2. ほめてくれた人をどのようにとらえているのか

「ほめ」の内容ごとに、ほめられたらうれしいとおもう順に「ほめ手」を並べてもらい，それぞれ1位（4点）、2位（3点）、3位（2点）、4位（1点）と得点化した。これを「ほめ手得点」とした。「ほめ」の内容別に「ほめ手」ごとのほめ手得点について2要因（性別（男・女）×学年（1年・5年））の分散分析を行った。以下，各「ほめ」の内容と「ほめ手」別に結果を示す。

「愛情」カテゴリーについて

「愛情」に関して，「親」のほめ手得点を2要因分散分析したところ，主効果・交互作用とも有意ではなかった。「親」が一番うれしいと回答した（ほめ手得点が4点だった）子どもの理由は以下の通りであった。

1－②M*「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」――「手伝ったときとかに手伝ったら，ありがとうとかよく言ってくれるから。」*
1－③M*「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」――「おうちの人は，滅多に言ってくれないから。」――「じゃあ，あんまり言ってくれない人に言ってもらうのが1番うれしいのかな？」――「うん。」*
1－④M*「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」――「1番好きだから。」*
1－④F*「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」――「友だちや先生には，笑ってくれたりして，伝えてくれたりはするんですけど，やっぱりおうちの人とは，平日は少ししか会えなくて，その日のうちに話さないと忘れちゃうから，あんまりありがとうとか言ってくれないから，おうちの人に言ってもらったら1番うれしいかな。」*
5－③M*「どうして親が1番うれしいと思いまいしたか？」――「先生とかは，ありがとうとかよりは優しいねとかの方が多いし，友だちもあまりありがとうとかは言わない。親が，ありがとうとかまたやってって笑いながら言ってくれるからうれしい。」*

「先生」のほめ手得点を2要因分散分析したところ，学年要因に有意差が見られ，1年生（平均2.6点）のほうが5年生（平均1.7点）より高かった（$F_{(1,\ 16)}=5.40$, $p<.05$）。「先生」が1番うれしいと回答した子どもの理由は，以下の通りであった。

1－③F*「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」――「年上の人に言われると，年下の人に言われるよりうれしい。」――「おうちの人も年上の人だけど，先生の方がうれしい？」――「ママは，あんまり言ってくれないから。*
5－④F*「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」――「え，なんとなくだけど1番うれしい。」*

「友だち」のほめ手得点を2要因分散分析したが，主効果，交互作用とも有意差はなかった。「友だち」が一番うれしいと回答した子どもの理由は，以下の通りであった。

1－①M*「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「えっと，いっつも一緒に遊んだりしているから。」*
1－⑤M*「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「何かやったときに，友だちに笑ってもらったら1番いい気持ちになるから。」*
1－②F*「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「友だちがたくさんいて，たくさんいる中でも，仲が良い人に，ありがとうや笑ってもらったら，自分もうれしいし，言った人もうれしくなるから。」*
1－⑤F*「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「友だちが困っていて，助けてあげたときに，よく言ってもらえるから。」*

5－①M*「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「ありがとうって言われたら，優しいし，次は助けてくれそうだから。*
5－②M*「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「もっと仲が深まるし，自分ももっとこうすっきりした気持ちとか，ありがとうって言われたら，もっとありがとうって言われるように，もっと行動していこうって思うから。」*
5－④M*「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「1番笑いあったりしているから，その友だちにしてもらうと，認めてもらっていると思えるから。」*
5－⑤M*「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「なんとなく。」*
5－①F*「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「難しいなあ。友達にこうやって言ってもらったりすると，1番元気がでるから。」*
5－②F*「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「えっと，友だちは親とか，先生とか，下級生とかと違って，自分と同じ年の子で，だから，友だちに言ってもらった方がその分うれしい。親とか，先生とかと違って1番親しい。親は1番一緒にいるけど，友だちは親とは違って一緒に笑ったりできるから。」*
5－③F*「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「親切なことをやってあげたら，友だちによく言ってもらえるから。」*

「下級生」のほめ手得点を同様に2要因分散分析したが，主効果，交互作用とも有意差はなかった。「下級生」が一番うれしいと回答した子どもの理由は以下の通りであった。

1－①F*「どうして年下の友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「なんか，けがしてて，保健室に連れて行ってあげたときに，ありがとうって言われてうれしかった。」*
5－⑤F*「どうして下級生が1番うれしいとおもいましたか？」――「私が，高学年で5年生だし，下級生に頼りになるねとか言われたら，ここまでやってきてよかったなって思えるし，下級生のお手本になっていると思うから。」*

「能力」カテゴリーについて

次に「能力」に関して，「親」のほめ手得点を2要因分散分析したところ，性別と交互作用に有意差が見られた（それぞれ $F_{(1,\ 16)}=15.68$, $p<.01$; $F_{(1,\ 16)}=5.12$, $p<.05$）。単純主効果の検定を行ったところ，1年生においてのみ性別に有意差がみられ，男児（平均 3.8）のほうが女児（平均 1.6）より得点が高かった（$F_{(1,\ 16)}=19.36$, $p<.01$）。一方で5年生においては男児（平均3.2）と女児（平均2.6）の間に有意差はなかった。「親」が一番うれしいと回答した子どもの理由は以下の通りであった。

1－①M*「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」――「お手伝いとかに，よく言ってもらうから。」*
1－③M*「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」――「1番知っている人だから。」*
1－④M*「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」――「1番好きだから。」*
1－⑤M*「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」――「なんか学校で，頑張って作ったものとか，頑張ったことを，お母さんに言ったら，すごいとか上手って言ってもらえるから。」*
5－①M*「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」――「まあ，親は親で，自分のことを知ってほしいから。」*
5－③M*「どうして親が1番うれしいと思いまいしたか？」――「えっと，1番一緒にいる時間が長いから。後，関係が深まっている気がするから。下級生とかは，あんまり話すことがないし，友だちは話すけどそこまでだし。」*
5－①F*「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」――「なんか，自分の親だと信じれるっていうか，勇気がもらえるし，まあそんな感じ。」*

「先生」のほめ手得点を2要因分散分析したところ，学年要因に有意差が見られ（$F_{(1,\ 16)}=5.82$, $p<.05$），1年生（平均2.7）のほうが，5年生（平均1.9）より高かった。「先生」が一番うれしいと回答した子どもの理由は以下の通りであった。

1－①F*「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」――「なんか，算数とか音楽の授業のときに，音楽の授業のときには，鍵盤とか上手に弾けたらうれしいし，算数の授業だったら，図がうまく書けたら上手って言ってもらった*

らうれしいから。」

「友だち」のほめ手得点を 2 要因分散分析したところ，学年要因に主効果がみられ，「先生」とは反対に 5 年生（平均 3.5）の方が 1 年生（平均 2.5）より得点が高かった（$F_{(1,\ 16)}=5.00$，$p<.05$）。「友だち」が 1 番うれしいと回答した子どもの理由は，以下の通りであった。

1－②M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「いつも一緒にいるから。」*
1－④F*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「自分は，そう思っていなくて，ちゃんとできるように頑張っているだけなんだけど，同じことをしている友だちにすごい，上手って言われると，自分はすごくできているんだって思えるから。」*
1－⑤F*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「なんか，字が綺麗とかを，自分とおんなじ人に言ってもらえるとうれしい。」*
5－②M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「えっとこう，すごい，上手って言われたら，例えば，なんかをしてて，頑張ったときにすごい，上手って言われたら，友だちはずっと練習してきているのを見ているから，言われたら，あっ，上手にできているんだなって思えるからうれしい。」*
5－④M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いまいしたか？」――「友だちが 1 番仲が良いから。」*
5－⑤M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「なんとなく。」*
5－③F*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「学校で，体育とかで，友だちよりうまくできたときに，言われるといい気分になるから。」*
5－④F*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「友だちとかだったら，できない子がいて，それを自分ができたときに言ってもらえたらうれしいから。」*
5－⑤F*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「今，学校で，プラス言葉っていうのをやってて，仲の良い友だちに，すごいとか，上手って言ってもらったらすごいうれしいし，なんか，ありがとうってなるから 1 番うれしい。」*

「下級生」のほめ手得点を 2 要因分散分析したが，主効果･交互作用とも有意差はなかった。「下級生」が 1 番うれしいと回答した子どもの理由は，以下の通りであった。

1－②F*「どうして年下の友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「妹がいて，1 番下の妹が，よく片付けとかすぐ終わったら，早くてすごかったよとか，時々お手伝いをするときに，お料理するが上手だねとかがうれしい。」*
1－③F*「どうして年下の友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「すごいは，字が丁寧なときに言われるし，年下の子に言われるとお手本になるから。」*
5－②F*「どうして下級生が 1 番うれしいと思いましたか？」――「下級生は，私の上学年のところを見て言ってくれてると思うから，そういうちっちゃい子に言ってもらえると、もっと頑張ろうとか，うれしいとか，自分を 1 番上として，目印として，見てくれているのかなとか思うから。」*

「努力」カテゴリーについて

「努力」に関して，「親」のほめ手得点を 2 要因分散分析したが，主効果･交互作用とも有意差はなかった。「親」が 1 番うれしいと回答した子どもの理由は，以下の通りであった。

1－②M*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」――「なんか，おうちの人に言ってもらったら，1 番気持ちいいから。」*
1－④M*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」――「1 番好きだから。」*
1－①F*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」――「なんか，冬休みの宿題で縄跳びがあって，その縄跳びがあや跳びができなかったのが，できるようになったねって言われたからうれしかった。」*
1－②F*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」――「冬休み中に，お手伝いを決めてそれをするときがあって，学校に来る前に，おうちの人からの一言を書いてもらったときに，できるようになってよかったねとか，また今度も頑張ってねとか，ありがとう，また今度もやってねって書いてくれたらうれしかったから。」*

1－③F*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」――「できるようになったねとかは，逆上がりができなかったときに，できたりしたときにしてくれるから。」*
1－④F*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」――「友だちには，いつも言われているけど，おうちの人には，平日 2 時間くらいしか会えなくて，あんまり話ができなくて，あんまり言ってもらえないから，おうちの人が 1 番うれしい。」*
1－⑤F*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」――「んー，なんとなく。」*
5－①M*「どうして親が 1 番うれしいと思いましたか？」――「まあ，親はずっと変わらないから，できるようになったことは知ってほしいから。」*
5－②M*「どうして親が 1 番うれしいと思いましたか？」――「えっとこう，小さいときから一緒にいて，こうどういう風に成長してきたとかも親は知っているから，よく頑張ったねとか，～できるようになったねっていうのが，親はすごい成長しているのっていうか，自分でも成長しているってことを，自分でも分かるっていうか，親に言われるとすごい説得力があるし，うれしいから。」*
5－④M*「どうして親が 1 番うれしいと思いましたか？」――「なんか，友だちとかに言われてもからかいとかに聞こえるから。親は素直にうれしい。」*
5－②F*「どうして親が 1 番うれしいと思いましたか？」――「親はいつも私の宿題とか，成績とかを見てくれたりしてくれるから。後，1 番身近で自分の成長を見てくれてた人だからうれしい。」*
5－③F*「どうして親が 1 番うれしいと思いましたか？」――「なんか，いつも見てくれているから，そう言われるとうれしい。」*
5－④F*「どうして親が 1 番うれしいと思いましたか？」――「いっつも見守ってくれているから。」*

「先生」のほめ手得点を 2 要因分散分析したところ，学年要因の主効果に有意差は見られ（$F_{(1,\ 16)}=4.57$，$p<.05$），1 年生（平均 2.1）に比べ 5 年生（平均 2.9）の方が高くなった。「先生」が 1 番うれしいと回答した子どもの理由は，以下の通りであった。

1－①M*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」――「えっと，授業とかで，字が綺麗なときに言ってくれたから。」――「おうちの人よりも先生の方がよく言ってくれる？」――「おうちの人の方がよく言ってくれるけど，先生の方がうれしい。」*
5－①F*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」――「自分に教えてくれた人に，認めてもらえるのがうれしいから。」*
5－⑤F*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」――「先生に，いろいろ教えてもらってるから，その先生に，～できるようになったねって言われたら 1 番うれしい。」*

「友だち」のほめ手得点を 2 要因分散分析したところ，性別要因に主効果があり（$F_{(1,\ 16)}=12.00$，$p<.01$），男児（平均 3.1）の方が女児（平均 1.9）に比べて高かった。「友だち」が 1 番うれしいと回答した男児の理由は，以下の通りであった。

1－③M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「友だちは，1 番仲が良いから。」――「よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらうのは，1 番仲が良い人に言ってもらいたい？」――「うん。」*
1－⑤M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「友だちが，たくさん言ってくれるし，いつも遊んだりしてるから。」*
5－③M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「学校とかだったら，1 番見てくれているのは友だちだし，そんなに親とかは学校にはこんし，先生はほかのとことか見とったら，そんなに見てないし，下級生と一緒にいることは少ないから，近くで見てくれとる友だちに言われたらうれしい。」*

「下級生」のほめ手得点に関しては、5 年生の男女全員が 1 点としていた。「努力」に関して「下級生」からほめられることが一番うれしいと答えた協力児は一人もいなかった。

「性格」カテゴリーについて

「性格」に関して，「親」のほめ手得点を 2 要因分散分析したが，主効果･交互作用とも有意差はなかった。「親」が 1 番うれしいと回答した子どもの理由は，以下の通りであった。

1－①M*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」――「お手伝いをしたときに，言われてうれしかったから。」*
1－④M*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」――「1 番好きだから。」*
1－⑤F*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」――「いつもしないことをして，頼りになるねとか言ってもらったら，1 番うれしいから。」*

「先生」のほめ手得点を 2 要因分散分析したが，主効果･交互作用とも有意差はなかった。「先生」が 1 番うれしいと回答した子どもの理由は，以下の通りであった。

1－②F*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」――「今日，先生に，お手伝いしたいって言ったときに，頼りになるねって言われたからうれしかった。」*
5－③M*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」――「学校の中だったら，学校の中で助けてあげたりしたら，自分も先生もいい気持になるし，親とかだったら，家とかでは，手伝いとかはするけど，そこまでしないっていうか，何か手伝ったり，助けたりすることは，学校にいるときが多いから，先生に言われるとうれしい。」*
5－①F*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」――「え，なんか，学校の中の年上の人がほめてくれるっていうか，そういうことを言ってくれたら 1，番うれしいから。」*
5－③F*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」――「なんか，先生に，さっきとつながるんですけど，友だちに親切にしたら，先生に，友だちにやったことをほめてもらえるから。」*

「友だち」のほめ手得点を 2 要因分散分析したところ，性差要因に有意差が見られ（$F_{(1,\ 16)}=7.20$, $p<.05$），男児（平均 3.4）の方が女児（平均 2.2）に比べて高かった。「友だち」が 1 番うれしいと回答した男児の理由は，以下の通りであった。

1－②M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」－――「なんか，友だちの手伝いをしたときに，よく言ってくれるから。」*
1－⑤M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「なんか，いっつも遊んでる友だちが，よく言ってくれるから。」*
1－①F*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「なんか，優しいことをしてあげたり，してあげたときに，頼りになるねとか言われてうれしかった。」*
5－①M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「まあ，友だちは 1 年生からずっと一緒に過ごしてきたから，その友だちに頼りにされるとうれしいから。」*
5－②M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「えっと，こうなんか，1 番遊んだりとか，日が会うっていうか，結構親しいというか，遊んだりする仲なので，優しいとか，頼りになるねって言われたら，こうもっと仲が深まるというか，うれしいから。」*
5－④M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「友だちが優しいから，優しい人に言ってもらえたら本当に優しいんだなって思えるから。」*
5－⑤M*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「なんとなく。」*
5－②F*「どうして友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「えっと，友だちは，なんか，親とかだったら，よく言われるけど，友だちが言ってくれたときが 1 番うれしい。」*

「下級生」のほめ手得点を 2 要因分散分析したが，主効果･交互作用とも有意差はなかった。「下級生」が 1 番うれしいと回答した子どもの理由は，以下の通りであった。

1－③M*「どうして年下の友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」――「年下の友だちは小さいから，小さい子に言*

われたときが 1 番うれしくなる。」
1－③F*「どうして年下の友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，見本を見せる感じだから。」*
1－④F*「どうして年下の友だちが 1 番うれしいと思いましたか？」―――「よく，年下の友だちは，小さいから，優しくしてあげてるんですけど，そのときに，頼りになるねや優しいねって言ってもらえるといい気持ちになれるから。」*
5－④F*「どうして下級生が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「下級生に言われると，見本になっている感じがするから。」*
5－⑤F*「どうして下級生が 1 番うれしいとおもいましたか？」―――「私が，高学年で 5 年生だし，下級生に頼りになるねとか言われたら，ここまでやってきてよかったなって思えるし，下級生のお手本になっていると思うから。」*

「物質」カテゴリーについて

「物質」に関して，「親」のほめ手得点を 2 要因分散分析したが，主効果･交互作用とも有意差はなかった。「親」が 1 番うれしいと回答した子どもの理由は，以下の通りであった。

1－①M*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「んー，なんとなく。」*
1－④M*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「1 番好きだから。」*
1－⑤M*「どうしておうちの人がうれしいと思いましたか？」―――「なんか，空手とか習ってて，頑張ったらアイスとかもらえるから。」―――「先生には，何かもらったことはある？」―――「マラソン大会のときに，記録賞もらった。」―――「先生に，記録賞をもらったときより，おうちの人にアイスもらったときの方がうれしい？」―――「うん。」*
1－②F*「どうしておうちに人が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「えっと，お父さんとお母さんとおばあちゃんがいて，賞状を持って帰ったら，好きなものを買ってもらえるし，すごくいつもよりほめてもらえるから。」*
1－④F*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「すごい迷ったんですけど，おうちの人には，物をあんまりもらったことがないんですよ。先生には，賞状とかよくもらっているんで，あんまりもらえない人からもらえたらうれしい。」*
1－⑤F*「どうしておうちの人が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「おうちの人から大事なもらったときに，1 番うれしい。」*
5－②M*「どうして親が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「こうずっと親と小さいときから過ごしているから，何かできたときに，ご褒美とかでよくもらったりするから，そのときは親にもらった方がうれしい。」*
5－③M*「どうして，親が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「親とかは，いつもほしいとか言ったら買ってくれるし，遠慮とかしないから。」*
5－④M*「どうして親がうれしいと思いましたか？」―――「まあ，先生より勉強したり，遊んだり，親しい存在だからそういう人にしてもらうのが 1 番うれしい。」*
5－⑤M*「どうして親がうれしいと思いましたか？」―――「なんとなく。」*
5－③F*「どうして親が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「なんか親から，頑張ったときに物をもらってうれしいから。」*
5－④F*「どうして親が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「なんだろう。分かんないけど，なんとなく親がうれしい。」*
5－⑤F*「どうして親が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「賞状もらったりするときは，あんまり先生しかそういう部分を見てくれていないけど，親に何かもらったりするのは，親が見てくれているっていうのがわかるから，親のほうがうれしい。」*

「先生」のほめ手得点を 2 要因分散分析したが，主効果･交互作用とも有意差はなかった。「先生」が 1 番うれしいと回答した子どもの理由は，以下の通りであった。

1－②M*「どうして先生がうれしいと思いましたか？」―――「先生の渡し方がいいから。」―――「どんな渡し方をしてもらう？」―――「みんなの前でもらった。」*
－③M*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「先生もらったことないから。」―――「もらったことがない人からもらうのが，1 番うれしいのかな？」―――「うん。」*
1－①F*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，マラソン大会とときとかに，賞状とかもら*

うと，足が速いって思えるから。」
1－③F*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「渡し方がいいから。」*
5－①M*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「まあ，先生はいつも話してて，授業とか教えてもらっていて，それをできたみたいなそれでやったんだったら，物をもらったらできているなと思うから。」*
5－①F*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「先生からはめったにもらえないから，もらえたらうれしい。」*
5－②F*「どうして先生が 1 番うれしいと思いましたか？」―――「えっと，先生は普段，教えてくれるしかしてくれないから，先生から何かもらえるとうれしい。親から何かプリントとかして，がんばったねって何かもらうよりも，教えてくれたり，話してくれたりしかしてくれない先生から何かもらった方がうれしい。」*

3. 何を「ほめ」としてとらえているのか

ほめると言う言葉の意味

「ほめるという言葉を知っていますか？」という質問に対して「はい。」と回答し，かつ「どんな意味か教えてくれますか？」という質問に対して回答できた子どもの人数を男女・学年別にまとめた（Table 2)。

Table 2 「ほめる」という言葉の意味を回答できた人数

1年生		5年生		合計
男児	女児	男児	女児	
4	5	4	4	17

「ほめるという言葉を知っていますか？」という質問には，20 人中 19 人が「はい。」と回答したが，「どんな意味か教えてくれますか？」という質問には，3 人が「説明できない。」と回答した。説明できないと回答した子どもの発言は以下の通りであった。

1－②M*「ほめるっていう言葉は知っていますか？」―――「うん。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「うまく言えん。」*
5－①M*「ほめるという言葉を知っていますか？」―――「なんとなく。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「いや，なんとなく使っているけど，意味は説明できない。」*
5－④F*「ほめるという言葉を知っていますか？」―――「うん。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「意味？え，なんとなくしか分からない。」―――「なんとなくって？」―――「分かるけど，うまく説明できない。」*

また、子どもが回答した「ほめる」という言葉の意味を男女・学年別にまとめた（Table 3)。

Table 3　子どもが回答した「ほめる」という言葉の意味

	男児	女児
１年生	・お手伝いをして，よく頑張ったときに言ってもらうこと	・お手伝いとしたときに，ありがとうと言ってくれること
	・すごく上手にできたねって言ってくれること	・上手だねとか，優しいねって言ってもらうこと
	・何かをしたら，いい子ねっていってもらうこと	・上手なときとか，なんか頑張ったときとかに言ってもらうこと
	・字が綺麗なときに，上手って言ってもらうこと	・自分が何かやったときに，ありがとうの気持ちを込めてしてもらうこと
		・友だちができていないことができたときに，すごいとか言ってもらうこと
５年生	・今までできなかったことができたときに，すごいねとか，よくできたねと言ってもらうこと	・できるようになったねみたいな，何かができるようになったときにしてもらうこと
	・すごいとか，ありがとうとかそういうやつ	・相手のしたことを，すごいなとか思ってぱっと出ちゃうもの
	・できたことを認めて，盛り上げる感じ	・友だちが，すごいとか，自分がうれしくなることを言ってくれること
	・自分がすごいとか，上手とか，称えてもらうこと	・先生とか，親とかに，自分のやったことを認めてもらうこと

誰にほめてもらうのか

子どもが回答したほめ手を男女・学年別にまとめた（Table 4）。

Table 4 子どもが回答したほめ手

	男児	女児
1年生	・友だち【4人】	・おうちの人【4人】
	・お母さん【3人】	・友だち【3人】
	・おじいちゃん【3人】	・先生【3人】
	・おばあちゃん【3人】	・年下の子【3人】
	・おうちの人【2人】	・お母さん【2人】
	・先生【2人】	・6年生【2人】
	・お父さん【1人】	・妹【1人】
	・友だちのお母さん【1人】	・年上の友だち【1人】
	・大学の人【1人】	・近所の人【1人】
		・友だちのおうちの人【1人】
5年生	・友だち【5人】	・親【5人】
	・親【3人】	・友だち【4人】
	・先生【3人】	・先生【4人】
	・お父さん【2人】	・おばあちゃん【1人】
	・お姉ちゃん【1人】	・年上のいとこ【1人】
	・おじいちゃん【1人】	・弟【1人】
	・おばあちゃん【1人】	・妹【1人】

どんなときにほめてもらうのか

子どもが回答したほめられる場面を男女・学年別にまとめた（Table 5）。

Table 5 子どもが回答したほめられる場面

	男児	女児
１年生	・お手伝いをしたとき【3人】	・お手伝いをしてあげたとき【3人】
	・字が綺麗にかけたとき【2人】	・優しくしてあげたとき【2人】
	・賞状をもらったとき【1人】	・列に並ぶのに困っている人を，助けてあげたとき【1人】
	・お掃除が綺麗にできたとき【1人】	・落としたものを拾ってあげたとき【1人】
	・走るのが早くなったとき【1人】	・賞状を持って帰ったとき【1人】
	・友だちに優しくしたとき【1人】	・片づけをしたとき【1人】
	・プールでテスト受かったとき【1人】	・字をきれいに書いたとき【1人】
	・プールでテスト受かったとき【1人】	・生活をちゃんとしたとき【1人】
		・苦手なことを頑張ったとき【1人】
		・自分の得意なことを見てもらったとき【1人】
		・友だちができないことができたとき【1人】
５年生	・テストでいい点をとったとき【2人】	・お手伝いをしたとき【3人】
	・勉強でわからなかったとこができたとき【1人】	・テストでいい点を取ったとき【3人】
	・勉強を頑張ったとき【1人】	・部屋のかたづけをしたとき【1人】
	・今までできなかったことができたとき【1人】	・オセロで勝ったとき【1人】
	・何かをしてよくできたとき【1人】	・友だちの仕事を手伝ったとき【1人】
	・サッカーですごいプレイをしたとき【1人】	・悩みを聞いてあげたとき【1人】
	・難しいことができたとき【1人】	・助けてあげたとき【1人】
	・重い荷物を持ってあげたとき【1人】	・宿題を早くしたとき【1人】
	・すごいことをしたとき【1人】	・弟の面倒をみたとき【1人】
	・助けてあげたとき【1人】	・下級生ができないことをしたとき【1人】
	・人のためになることをしたとき【1人】	・学校でいいことをしたとき【1人】
	・いいことをしたとき【1人】	・授業のこと【1人】
		・発表したとき【1人】
		・ノートのまとめ方が綺麗なとき【1人】
		・友達ができなかったことができたとき【1人】

どんなことをしてもらったらほめてもらったと思うのか

子どもが回答したほめられ方を男女・学年別にまとめた（Table 6）。

Table 6 子どもが回答したほめられたとき

	男児	女児
1年生	・すごいね【4人】	・すごいね【4人】
	・ありがとう【3人】	・ありがとう【3人】
	・上手【2人】	・優しいね【2人】
	・よかったね【1人】	・字が綺麗だね【1人】
	・ご褒美をもらう【1人】	・よく頑張ったね【1人】
	・ジュースを買ってもらう【1人】	・賞状をもらう【1人】
	・アイスを買ってもらう【1人】	
5年生	・すごいね【3人】	・すごいね【5人】
	・ありがとう【3人】	・頑張ったね【3人】
	・外出する【1人】	・ありがとう【2人】
	・スキーに行く【1人】	・よくできました【1人】
	・～できたね【1人】	・よくできたね【1人】
	・ナイスプレイ【1人】	・うまいね【1人】
	・タッチ【1人】	・さすが【1人】
	・よくやったね【1人】	
	・お小遣い【1人】	
	・ゲームを買ってもらう【1人】	

ほめられたらどんな気持ちになるのか

子どもから報告された，ほめられた時の気持ちを男女・学年別にまとめた（Table 7)。

Table 7 子どもから報告されたほめられた時の気持ち

	男児	女児
１年生	・うれしい【3人】	・うれしい【5人】
	・いい気持ち【2人】	・やってよかった【3人】
	・気持ちいい【2人】	・もう一回やろう【1人】
	・やったー【2人】	・もっといっぱい頑張りたい【1人】
	・楽しくなる【1人】	・もう一回ほめられたい【1人】
	・やってよかった【1人】	
５年生	・うれしい【4人】	・うれしい【3人】
	・上機嫌【1人】	・やってよかった【2人】
	・達成感【1人】	・他の人ともやってみたい【1人】
	・やってよかった【1人】	・次からは言われる前にやろう【1人】
	・誇りに思う【1人】	・もっと頑張ろう【1人】
	・またほめられるように頑張ろう【1人】	・またやってあげたい【1人】
	・上手にできているんだなと自覚する【1人】	・もっとできるかもしれない【1人】
	・またやってあげたい【1人】	・心が広くなる【1人】

IV. 考察

1. ほめられ方やほめられた内容をどのようにとらえているのか

ほめられ方やほめられた内容をどのようにとらえているのかについては，5 つの「ほめ」の内容において，得点の性差・発達差に有意差はみられず，「ほめ」の内容のとらえ方には性別・学年の違いによって大きな差異がないことがわかった。全体的に「努力」を一番うれしいととらえる子どもが多く，子どもたちの回答からも「頑張っていることをほめてもらいたい」という気持ちを抱いていることがわかった。これは児童期の子どもの特徴ではないかと思われる。児童期の子どもは，幼児期とは異なり，学校という集団の中で勉強をし，多くの人と関わりながら生活するようになる。そして，その中でさまざまなことを経験し，学んでいく。しかし，児童期の子どもは，できることよりもまだまだできないことの方が多い。自分のできること，できないことを周りの友だちとの関わり，テストの点数などを通して少しずつ理解していき，日々の生活の中でできないことを克服していくために，多くの努力をしながら生活しているのではないか。したがって，本調査において，性別・年齢に関係なく，自分の頑張りを直接的に伝えてもらえる「努力」の「ほめ」を 1 番うれしいと回答した子どもが多かったのではないだろうか，と推測される。

2. ほめてくれた人をどのようにとらえているのか

幼児期までの子どもは，親を重要な他者と考えているが，児童期の子どもは，友だちとの生活の中でしだいに仲間意識が芽生え，親から精神的に自立し，友だちとの関係を重要視するようになるとされている。しかし，本調査では，学年が上がるとともに，うれしいと思うほめ手が親から友だちへと変わるような明確な変化はみられなかった。また，うれしいと思うほめ手は常に同じというわけではなく，「ほめ」の内容によって変わることがわかった。

子どもの回答から，うれしいと思うほめ手には 2 つの要因が関係していることが考えられる。1 つ目は，ほめ手との関係性である。一番うれしいと思った理由を尋ねたところ，親は最も一緒にいる時間が長いから，友だちは最も仲が良いから，といった回答が多く得られた。このような回答から，子どもは，自分との関係性からそれぞれのほめ手が自分にとってどういう存在なのかということを考え，区別してとらえていることが考えられる。また，同じ「ほめ」の内容であっても，うれしさはそれぞれのほめ手をどのようにとらえているかによって異なることが考えられる。しかし，回答された理由でもわかるように，それぞれのほめ手のとらえ方は，性別・学年によって共通しているものもあったが，多くは個々の子どもによってさまざまであった。

2 つ目は，経験頻度である。一番うれしいと思った理由を尋ねたところ，よく言ってもらうから，あんまり言ってくれないから，といった回答が多く得られた。しかし，回答された理由でもわかるように，ほめられる頻度の多さから１番うれしいと感じる子どももいれば，ほめられる頻度の少なさから一番うれしいと感じる子どももおり，経験頻度とうれしさは大きく関係しているが，性別・学年によって共通しているのではなく，個々の子どもによってさまざまであることが考えられる。また，このような経験頻度を理由として回答した子どもは，１年生に多かったことから，特に，１年生にとって経験頻度はうれしさに大きく関わっていることが考えられる。

3. 何を「ほめ」としてとらえているのか

ほめると言う言葉の意味

ほめるという言葉の意味について，辞書に書いてある通りの正しい意味を回答した子どもはおらず，回答された意味は，個々の子どもによってさまざまであった。しかし，子どもが回答した意味をみてみると，辞書に書いてある通りの正しい意味ではないが，性別・学年に関係なく，多くの子どもがほめるという言葉の本質を理解しているようであった。また，具体的なほめられる場面やほめられ方を回答していた子どもが多いことから，これまでのほめられた経験を通して，ほめるという言葉の意味がどういう意味なのか自分なりに理解していることが考えられる。これは，ほめるという言葉に限られることではなく，他の言葉にも共通して言えることであろう。児童期の子どもは，大人のように正しい意味で物事を理解することはまだ難しいが，さまざまな経験を通して徐々に物事の本質を理解していくのだと考える。

誰にほめてもらうのか

ほめ手については，性別・学年に関係なく，「親」，「先生」などの上位者，対等な他者である「友だち」を回答した子どもが多かった。しかし，女児のみ，「妹」，「下級生」などの自分より年齢の低い下位者もほめ手として回答していた。また，女児の回答では，よく面倒をみてあげているからと回答をした子どもが多かったことから，このような下位者に対しての養護的な態度は，年齢に関係なく女児に共通してみられる特徴ではないかと考える。

また，１年生では，「友だち」とひとくくりで回答していたのが，５年生では，「友だち」と「親友」を分けて回答していた。このことから，年齢が上がるにつれ，自分と関わる他者を自分との関係性からより細かく区別してとらえるようになるということが考えられる。また，このように他者をより細かく区別してとらえるようになることが，特に中学年以降で，「ギャングエイジ」と呼ばれるような同性の友人数人で，閉鎖的で排他的な団結力の強い仲間集団を形成するようになることと関係している

のではないかと考える。

どんなときにほめてもらうのか

ほめられた場面については，性別・年齢に関係なく，「お手伝いをしたとき」，「親切なことをしたとき」と回答した子どもが多かった。また，学年別でみていくと，1 年生では，字をきれいに書いたとき，生活をちゃんとしたときなど基礎的な場面が多く，勉強に関する場面は少なかったが，5 年生では，基礎的な場面は減り，勉強に関する場面を多く回答していた。このような差異が生じた理由として，1 年生と 5 年生では，発達的に重要視しているものに差があるためだと考えられる。1 年生では，小学校に入学したばかりで，勉強よりも学校生活に慣れることや一人でさまざまなことをできるようにすることが重要視されている。一方，5 年生では，学校生活にも慣れ，基礎的な場面の多くは一人でできるようになってくる。また，学年が上がるにつれ，勉強の難易度が上がっていくことで，徐々に勉強が重要視されるようになる。このように，学年によって重要視されるものは徐々に変化していく。そのため，このような差異が生じたと考えられる。

どんなことをしてもらったらほめてもらったと思うのか

ほめられ方については，性別・年齢に関係なく，「ありがとう」，「すごい」というほめられ方を回答した子どもが多かった。しかし，男児のみ，ご褒美として何かもらうことをほめられ方として回答していた。また，うれしいと思う「ほめ」の内容においても，女児に比べ，男児は「物質」の「ほめ」の得点が高かったことから，女児では，良い部分を直接的に言葉で伝えてもらうほめられ方を好む傾向にあるが，男児では，ご褒美に何か物をもらうというほめられ方と良い部分を直接的に言葉で伝えてもらうほめられ方には，大きな差異がないことが考えられる。

ここでは，具体的に子どもがどんなことをしてもらったらほめられたと受け止めているのかについて明らかしようとした。しかし，子どもの回答からは，具体的なほめられ方は，あまり回答されず，言葉のみのあっさりとしたほめられ方が多く回答された。このような結果となった理由として，児童期の子どもにとって，このような抽象的な質問から具体的なことを想像するのはまだ難しく，そのため，子どもがこのようなあっさりとした回答になってしまったのではないかと考える。

ほめられたらどんな気持ちになるのか

ほめられたときの気持ちについては，性別・年齢に関係なく，「うれしい」，「やってよかった」などほめられたことに対してのポジティブな感情を回答した子どもが多かった。また，ポジティブな感情に加え，動機づけの高まりを回答した子どももいたが，少人数であった。このことから，多くの子どもは，ほめられることで自分の行った行動に対して満足感，充実感を抱いているが，動機づけまで意識が向いていないことが考えられる。また，1 年生と 5 年生のほめられたときの気持ちを比較してみると，1 年生では，ポジティブな感情，動機づけの高まりのみであるが，5 年生では，これらの気持ちに加え，ほめられることで自分がどの程度できているか理解している子どももいた。このことから，1 年生では，相手がほめてくれたことを単純に受け止めるだけであったが，5 年生では，物事を受け止める視点が広がり，単に受け止めるだけではなく，ほめてくれたことをさまざまな視点からとらえることで，自己理解を深めていけるようになることができると考える。

V. 結語

本研究では，子どもの「ほめ」のとらえ方を，性差・発達差に焦点を当て，明らかにすることを試みた。その結果，性別・年齢の違いによって，「ほめ」の内容，ほめ手など要因のとらえ方に異なるものがあり，それぞれの要因のとらえ方によってうれしさが変化していくことがわかった。しかし，子どもにインタビュー調査を行っていく中で，子どもは，育ってきた環境やこれまで経験してきたことから，一人ひとりその子どもなりの考えを持っていることがわかった。したがって，子どもを性別・年齢によって分け，そのようなくくりで子どもをとらえ，違いを見つけ出すことは，難しいことであ

ると感じた。また，このようなことから，子どもと関わる際には，性別・年齢によって関わり方を決めるのではなく，子ども一人ひとりとしっかり向き合い，関わることが大切であると改めて感じた。

本研究では，インタビュー調査を行ったが，インタビューに対する緊張から，あまり多くを回答しない子どももいた。そのため，より子どもの回答を聞くことが可能な調査方法を考えるべきであると感じた。また，本研究では，対象とした子どもの人数は 20 人と少ない。そのため，今回得られた結果をもとに，研究の方法を見直し，より大人数の子どもを対象とした調査を行い，今回明らかになった「ほめ」のとらえ方について，検討していくことが求められる。

謝辞

本研究の調査にあたり，多忙な中，研究実施にご尽力いただきました小学校の先生方，お子様の調査協力に快諾いただきました保護者の方々，そして休憩時間や放課後といった貴重な時間を使ってのインタビューに快く応じてくれた子どもたちに，心より感謝申し上げます。

引用文献

兄井　彰・須崎康臣・横山正幸．(2013)．子どもの自尊感情と生活のあり方との関係ついての研究．生活体験学習研究，**13**，43−50．

青木多寿子・戸田まり．(2009)．*児童心理学*．東京：学文社．

青木直子．(2011)．ほめられたことがら・ほめられ方・ほめ手が児童の動機づけに与える影響．発達研究，**25**，1−12．

青木直子．(2005)．就学前後の子どもの「ほめ」の好みが動機づけに与える影響．発達心理学研究，**16**，237−246．

Deci，E．L．(1971)．Effects of externally mediated rewards on intrinsic motivation. *Jounal of Personality and Social Psychology*，**18**，105−115．

土橋　稔・戸塚　智・矢部　崇．(1992)．ほめ方・叱り方．*モノグラフ小学生ナウ*，**12**，37−55．ベネッセコーポレーション．

Felson，R．B．，& Zielinski，M．A．（1989）．Children’s self-esteem and parental support．*Journal of Marriage and the Family*，**51**，727−735．

Hull, C. L. (1960). *行動の原理*（能見義博・岡本栄一，訳）．東京 : 誠信書房．（Hull, C. L. (1943). *Principles of behavior: An introduction to behavior theory*. New York: Appleton-Century- Crafts, INC.）

蓑輪早織・向井隆代．(2003)．叱り言葉・ほめ言葉と親子関係認知、子どもの心理適応との関係．日本発達心理学会第 14 回大会発表論文集，313．

大宮俊恵・松田文子．（1987）．児童の内発的動機づけに及ぼす教師の外的強化の効果．教育心理学研究，**35**，1−8．

大野敬代．(2005)．「ほめ」の意図と目上への応答についてーシナリオ談話における待遇コミュニケーションとしての調査からー．社会言語科学，**7**，88−96．

桜井茂男．(1984)．内発的動機づけに及ぼす言語的報酬と物質的報酬の影響の比較．教育心理学研究，**32**，286−295．

高崎文子．(2000)．達成場面で乳児が受けるフィードバックと達成行動との関連．ヒューマンサイエンスリサーチ，**9**，71−82．

付録 1

1年生

●男児

1－①M「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしてありがとうや笑ってくれるが一番うれしいと思いましたか？」―――「んー，いいことをしたから。」―――「いいことをしたときは，これを言ってもらったときが1番うれしい？」―――「うん。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，おうちの人，先生，友だち，年下の友だちと書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，ありがとうって言ってもらったり，笑ってもらったときに，うれしいなって思う順番に4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「えっと，いっつも一緒に遊んだりしているから。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「お手伝いをしたときに，言われてうれしかったから。」―――「じゃあ，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「えっと，授業とかで，字が綺麗なときに言ってくれたから。」―――「おうちの人よりも先生の方がよく言ってくれる？」―――「おうちの人の方がよく言ってくれるけど，先生の方がうれしい。」―――「じゃあ，すごいねや上手だねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「お手伝いとかに，よく言ってもらうから。」―――「じゃあ，物をもらってときはどうですか？これは，おうちの人と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「んー，なんとなく。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるっていう言葉は知っていますか？」―――「うん。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「んー，お手伝いをしてよく頑張ったときに言ってもらうこと。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「えっと，お母さん。」―――「他には？」―――「おじいちゃん，おばあちゃん。くらい。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「お手伝いとしたとき。」―――「じゃあ，どんなことしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「ありがとうとか。」―――「じゃあ，ほめられたらどんな気持ちになりますか？」―――「いい気持ち。」―――「いい気持ちっていうのはどんな気持ちですか？」―――「うれしいとか。」

1－②M「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねが1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，自分の頑張りを見てくれてるって分かるからうれしい。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，おうちの人，先生，友だち，年下の友だちと書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，おうちの人に言ってもらったら，1番気持ちいいから。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，友だちの手伝いをしたときに，よく言ってくれるから。」―――「じゃあ，物をもらったときはどうですか？これは，おうちの人と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうして先生がうれしいと思いましたか？」―――「先生の渡し方がいいから。」―――「どんな渡し方をしてもらう？」―――「みんなの前でもらった。」―――「じゃあ，ありがとうって言ってもらったり，笑ってくれたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「手伝ったときとかに手伝ったら，ありがとうとかよく言ってくれるから。」―――「じゃあ，すごいや上手って言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「いつも一緒にいるから。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるっていう言葉は知っていますか？」―――「うん。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「うまく言えん。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」

―――「友だち，おうちの人，先生。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「お手伝いをしたとき。」―――「他には？」―――「賞状をもらったとき。もう思いつかん。」―――「じゃあ，どんなことしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「ありがとうとかすごいね。」―――「ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「いい気持ち。」―――「いい気持って？」―――「気持ちいい。」

1－③M「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして物をもらったときが1番うれしいと思いましたか？」―――「お金をもらうから。」―――「じゃあもらえるものが，お金じゃなくて賞状だったときはどう？」―――「賞状でも1番うれしい。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，おうちの人，先生，友だち，年下の友だちと書いてある4枚のカードがあります。まずは，友だちと年下の友だちはなしで，おうちの人と先生から物をもらったときに，うれしいなって思う順番に2人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「先生もらったことないから。」―――「もらったことがない人からもらうのが，1番うれしいのかな？」―――「うん。」―――「じゃあ，すごいや上手って言ってもらったときはどうですか？今度は，4人の人で考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「1番知っている人だから。」―――「じゃあ，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「友だちは，1番仲が良いから。」―――「よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらうのは，1番仲が良い人に言ってもらいたい？」―――「うん。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして年下の友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「年下の友だちは小さいから，小さい子に言われたときが1番うれしくなる。」―――「じゃあ，ありがとうって言ってもらったり，笑ってくれたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「おうちの人は，滅多に言ってくれないから。」―――「じゃあ，あんまり言ってくれない人に言ってもらうのが1番うれしいのかな？」―――「うん。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるっていう言葉は知っていますか？」―――「はい。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「すごく上手にできたねって言ってくれること。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「お父さん，お母さんとおじいちゃん，おばあちゃんと先生と友だち。後，友だちのお母さん。それくらい。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「お掃除が綺麗にできたときとか，走るのが早くなったときとか。」―――「他には？」―――「友だちに優しくしたとき。字が綺麗に書けたとき。」―――「じゃあ，どんなことしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「すごいですねとか，上手だね。ご褒美になんかもらえるときとか。」―――「他には？」―――「ありがとうとか，よかったね。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「うれしい。やったー。よかったなって思う。それくらい。」

1－④M「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして物をもらったときが1番うれしいと思いましたか？」―――「すごいことになるかもしれないから。」―――「すごいことってどんなこと？」―――「わからん。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，おうちの人，先生，友だち，年下の友だちと書いてある4枚のカードがあります。まずは，友だちと年下の友だちはなしで，おうちの人と先生から物をもらったときに，うれしいなって思う順番に2人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「1番好きだから」―――「じゃあ，すごいや上手って言ってもらったときはどうでうすか？」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「1番好きだから。」―――「じゃあ，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときはどうですか？」―――「さっきと一緒かな。」―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「さっきと一緒で，好きだから。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――「ここにあるやつ全部順番は，一緒かな。」―――「1番うれしいと思う理由も一緒？」―――「うん。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるっていう言葉は知っていますか？」―――「うん。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「何かをしたら，いい子ねって言ってもらうこと。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「お母さん，友だち，先生，大学の

人。それくらい。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「プールでテスト受かったとか，いいことをしたとき。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「ジュース買ってもらったり，すごいねって言ってもらったり。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「うれしい気持ち。後，やったーって気持ち。」

1－⑤M「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねが1番うれしいと思いましたか？」―――「いっつも，トイレの掃除とか頑張ってて，そういうのをほめてもらったら1番うれしいから。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，おうちの人，先生，友だち，年下の友だちと書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「友だちが，たくさん言ってくれるし，いつも遊んだりしてるから。」―――「じゃあ，すごいや上手って言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか学校で，頑張って作ったものとか，頑張ったことを，お母さんに言ったら，すごいとか上手って言ってもらえるから。」―――「じゃあ，ありがとうって言ってもらったり，笑ってくれたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「何かやったときに，友だちに笑ってもらったら1番いい気持ちになるから。」―――「じゃあ，物をもらったときはどうですか？これは，おうちの人と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人がうれしいと思いましたか？」―――「なんか，空手とか習ってて，頑張ったらアイスとかもらえるから。」―――「先生には，何かもらったことはある？」―――「マラソン大会のときに，記録賞もらった。」―――「先生に，記録賞をもらったときより，おうちの人にアイスもらったときの方がうれしい？」―――「うん。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，いっつも遊んでる友だちが，よく言ってくれるから。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」―――「はい。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「字が綺麗なときに，上手って言ってもらうこと。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「おうちの人。」―――「他には？」―――「お父さん，おじいちゃん，おばあちゃん。後，友だち。それくらい。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「字が綺麗なときとか，お手伝いをしてあげたとき。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「上手だね。すごいね。」―――「じゃあ，ほめてもらうとどんな気持ちになりますか？」―――「うれしい。気持ちがいい。楽しくなる。それだけしか分からん。」

●女児

1－①F「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしてすごいや上手が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，上手に駒とかが回せたときとかに，言ってもらったらうれしいから。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，おうちの人，先生，友だち，年下の友だちと書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，すごいや上手って言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に，4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，算数とか音楽の授業のときに，音楽の授業のときには，鍵盤とか上手に弾けたらうれしいし，算数の授業だったら，図がうまく書けたら上手って言ってもらったらうれしいから。」―――「じゃあ，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，冬休みの宿題で縄跳びがあって，その縄跳びがあや跳びができなかったのが，できるようになったねって言われたからうれしかった。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，優しいことをしてあげたり，してあげたときに，頼りになるねとか言われてうれしかった。」―――「じゃあ，ありがとうとか笑ってくれたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして年下の友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――

―「なんか，けがしてて，保健室に連れて行ってあげたときに，ありがとうって言われてうれしかった。」――「じゃあ，物をもらってときはどうですか？これは，おうちの人と先生だけで考えてみてください。」――並べてもらう。――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」――「なんか，マラソン大会とときとかに，賞状とかもらうと，足が速いって思えるから。」――「じゃあ，次の質問です。ほめるっていう言葉は知っていますか？」――「うん。」――「どんな意味か教えてくれますか？」――「なんか，お手伝いをして，ありがとうとか，ほめてくれること。」――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」――「おうちの人とか。」――「他には？」――「先生とか，年下の子とか，近所の人とか，6年生とか，友だち。」――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」――「なんか，友だちに列に並ぶときに困っていて，なんか教えてあげるときにありがとうって言ってくれた。」――「他には？」――「なんか，6年生の人に，たまたま6年教室の前を通ったときに，運動会で運んでただるまさんの目が落ちてたから，それを教えてあげたらありがとうって言われた。」――「じゃあ，どんなことしてもらったらほめてもらったと思いますか？」――「分からん。」――「じゃあ，ほめられたらどんな気持ちになりますか？」――「うれしい。あと，優しくしてあげてよかったなって思う。」

1－②F「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」――並べてもらう。――「どうしてお金をもらうや賞状をもらうが1番うれしいと思いましたか？」――「賞状をもらうときに，帰ってからおうちの人にすごかったねって言われるから。」――「じゃあ，次の質問です。ここに，おうちの人，先生，友だち，年下の友だちと書いてある4枚のカードがあります。まずは，友だちと年下の友だちはなしで，おうちの人と先生から物をもらったときに，うれしいなって思う順番に2人の人を並べてください。」――並べてもらう。――「どうしておうちに人が1番うれしいと思いましたか？」――「えっと，お父さんとお母さんとおばあちゃんがいて，賞状を持って帰ったら，好きなものを買ってもらえるし，すごくいつもよりほめてもらえるから。」――「じゃあ，ありがとうや笑ってくれたときはどうですか？」――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「友だちがたくさんいて，たくさんいる中でも，仲が良い人に，ありがとうや笑ってもらったら，自分もうれしいし，言った人もうれしくなるから。」――「じゃあ，すごいねや上手だねって言ってもらったときはどうですか？」――並べてもらう。――「どうして年下の友だちが1番うれしいと思いましたか？」――「妹がいて，1番下の妹が，よく片付けとかすぐ終わったら，早くてすごかったよとか，時々お手伝いをするときに，お料理するが上手だねとかがうれしい。」――「じゃあ，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときはどうですか？」――並べてもらう。――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」――「冬休み中に，お手伝いを決めてそれをするときがあって，学校に来る前に，おうちの人からの一言を書いてもらったときに，できるようになってよかったねとか，また今度も頑張ってねとか，ありがとう，また今度もやってねって書いてくれたらうれしかったから。」――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」――並べてもらう。――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」――「今日，先生に，お手伝いしたいって言ったときに，頼りになるねって言われたからうれしかった。」――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」――「うん。」――「どんな意味か教えてくれますか？」――「上手だねとか，優しいねって言ってもらうこと。」――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」――「友だちと遊びに行くときに，その友だちのおうちの人に，友だちを誘ってくれてありがとうって言われた。」――「他には？」――「おうちの人，妹，年上の6年生。」――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」――「おうちの人にほめてもらうときは，賞状をもらったり，友だちに優しくしたよって言ったときに，すごいねって言われる。で，6年生の人には，1年生なのに6年生に優しくしててありがとうって言われる。」――「妹にはどんなときにほめてもらいますか？」――「片づけをしたとき。」――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」――「うれしいし，もう一回やろうとも思うし，その人達にもう一回ほめられたいなと思う。」

1－③F「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」――並べてもらう。――「どうして頼りになるねや優しいねが1番うれしいと思いましたか？」――「えっと，頼りになるねは，頑張った

りして，言うのを，ほめてもらうように感じるからうれしい。」――――「じゃあ，次の質問です。ここに親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして年下の友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，見本を見せる感じだから。」―――「じゃあ，ありがとうや笑ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「年上の人に言われると，年下の人に言われるよりうれしい。」―――「おうちの人も年上の人だけど，先生の方がうれしい？」―――「ママは，あんまり言ってくれないから。」―――「じゃあ，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「できるようになったねとかは，逆上がりができなかったときに，できたりしたときにしてくれるから。」―――「じゃあ，すごいや上手って言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして年下の友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「すごいは，字が丁寧なときに言われるし，年下の子に言われるとお手本になるから。」―――「じゃあ，物をもらってときはどうですか？これは，おうちの人と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「渡し方がいいから。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」―――「うん。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「ほめるっていうのは，上手なときとか，なんか頑張ったときとかに，言ってもらうこと。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「友だちに，いっぱいほめてもらった。」―――「他には？」―――「ママとか家族。あと，先生。」―――「他には？」―――「言ってほしいのが，下の子。」―――「なんで言ってほしい？」―――「なかなか言ってもらうことがないから。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「いっつもは，字が丁寧じゃないときがあるけど，丁寧になったとき。」―――「他には？」―――「生活をちゃんとしたとき。後は，普段食器洗いとかは，ゲームをしてて中々できないけど，お手伝いをしたとき。」―――「じゃあ，どんなことしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「ありがとうとか，優しいね。字がきれいだね。すごいね。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「うれしい。してよかったな。もっといっぱい頑張りたい。」

1－④F「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねが1番うれしいと思いましたか？」―――「自分のできないことができるようになったり，最後まで頑張ったりしてきたことを，言葉で言ってもらうのが1番うれしい。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に，4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「友だちには，いつも言われているけど，おうちの人には，平日2時間くらいしか会えなくて，あんまり話ができなくて，あんまり言ってもらえないから，おうちの人が1番うれしい。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして年下の友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「よく，年下の友だちは，小さいから，優しくしてあげてるんですけど，そのときに，頼りになるねや優しいねって言ってもらえるといい気持ちになれるから。」―――「じゃあ，すごいや上手って言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「自分は，そう思っていなくて，ちゃんとできるように頑張っているだけなんだけど，同じことをしている友だちにすごい，上手って言われると，自分はすごくできているんだって思えるから。」―――「じゃあ，物をもらったときはどうですか？これは，おうちの人と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「すごい迷ったんですけど，おうちの人には，物をあんまりもらったことがないんですよ。先生には，賞状とかよくもらっているんで，あんまりもらえない人からもらえたらうれしい。」―――「じゃあ，ありがとうって言ってもらったり，笑ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「友だちや先生には，笑ってくれたりして，伝えてくれたりはするんですけど，やっぱりおうちの人とは，平日は少ししか会えなくて，その日のうちに話さないと忘れちゃうから，あんまりありがとうとか言ってくれないから，おうちの人に言ってもらったら1番うれしいかな。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめ

るという言葉は知っていますか？」―――「はい。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「自分が何かやったときに，ありがとうの気持ちを込めてしてもらうこと。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「おうちの人，先生，友だち，年下の人，年上の友だち。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「おうちの人は，お手伝いしたときや苦手なことを頑張ったとき。友だちには，自分の得意なことを見てもらったときかな。年下の人には，一回ほめられたことがあるんですけど，年下の友だちに優しくしてあげたら，優しいお姉ちゃんでよかったって言われて，ほめてもらえているのかなって思った。先生には，自分が苦手なことを頑張ったときにほめてもらった。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「おうちの人は，苦手なことを頑張ったときに，よく頑張ったねとか。お手伝いのときは，ありがとうとか。友だちには，すごいなとか言ってもらったら。年下の人には，優しいお姉ちゃんでよかったとかありがとうとか。先生は，よく頑張ったねとかすごいねとか。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「うれしい。自分も笑顔になって，やってよかったなって思う。」

1－⑤F「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねが1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，自分が頑張ったこととかに，言ってもらうのが1番うれしいから。」―――「じゃあ，じゃあ，次の質問です。ここに，親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「んー，なんとなく。」―――「じゃあ，すごいや上手って言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，字が綺麗とかを，自分とおんなじ人に言ってもらえるとうれしい。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「いつもしないことをして，頼りになるねとか言ってもらったら，1番うれしいから。」―――「じゃあ，ありがとうって言ってもらったり，笑ってくれたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「なんで友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「友だちが困っていて，助けてあげたときに，よく言ってもらえるから。」―――「じゃあ，物をもらったときはどうですか？これは，おうちの人と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうしておうちの人が1番うれしいと思いましたか？」―――「おうちの人から大事なもらったときに，1番うれしい。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」―――「はい。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「友だちができていないことができたときに，すごいとか言ってもらうこと。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「お母さん。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「友だちができないことができたときとか，お手伝いとかしたとき。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「すごいとか。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「うれしい気持ち。くらい。」

5年生

●男児

5－①M「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして頼りになるねや優しいねが1番うれしいと思いましたか？」―――「まあ，言われると，頼りにされてると思うから。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に，4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「まあ，友だちは1年生からずっと一緒に過ごしてきたから，その友だちに頼りにされるとうれしいから。」―――「じゃあ，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「まあ，親はずっと変わらないから，できるようになったことは知ってほしいから。」―――「じゃあ，物をもらったときはどうですか？これは，親

と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「まあ，先生はいつも話してて，授業とか教えてもらっていて，それをできたみたいなそれでやったんだったら，物をもらったらできているなと思うから。」―――「じゃあ，ありがとうや笑ってくれたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「ありがとうって言われたら，優しいし，次は助けてくれそうだから。」―――「じゃあ，すごいや上手って言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「まあ，さっきと同様，親は親で，自分のことを知ってほしいから。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉を知っていますか？」―――「なんとなく。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「いや，なんとなく使っているけど，意味は説明できない。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「まあ，親とか先生とか友だちとか。」―――「他には？」―――「親戚とか。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「まあ，勉強が分からなかったとこができたときとか，テストでいい点を取れたとき。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「まあ，外出とか，普通に～できたねとか。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「うれしいとか，勉強だったら達成感とか。」

5－②M「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして頼りになるねや優しいねが1番うれしいと思いましたか？」―――「えっとこう，頼りになるねとか，優しいねっていうのは，自分がまた，もっと頼りになるようにしたいとか，優しいようにしたりとかって，努力したりすることができるしうれしいから。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，優しいねや頼りになるねって言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に，4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「えっと，こうなんか，1番遊んだりとか，日が会うっていうか，結構親しいというか，遊んだりする仲なので，優しいとか，頼りになるねって言われたら，こうもっと仲が深まるというか，うれしいから。」―――「じゃあ，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「えっとこう，小さいときから一緒にいて，こうどういう風に成長してきたとかも親は知っているから，よく頑張ったねとか，～できるようになったねっていうのが，親はすごい成長しているのっていうか，自分でも成長しているってことを，自分でも分かるっていうか，親に言われるとすごい説得力があるし，うれしいから。」―――「じゃあ，ありがとうや笑ってくれたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「1番最初に聞かれたやつと似ているんですけど，もっと仲が深まるし，自分ももっとこうすっきりした気持ちとか，ありがとうって言われたら，もっとありがとうって言われるように，もっと行動していこうって思うから。」―――「じゃあ，物をもらったときはどうですか？これは，親と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「2番目に聞かれたやつと一緒で，こうずっと親と小さいときから過ごしているから，何かできたときに，ご褒美とかでよくもらったりするから，そのときは親にもらった方がうれしい。」―――「じゃあ，すごいや上手って言われたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「えっとこう，すごい，上手って言われたら，例えば，なんかをしてて，頑張ったときにすごい，上手って言われたら，友だちはずっと練習してきているのを見ているから，言われたら，あっ，上手にできているんだなって思えるからうれしい。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」―――「あっ，はい。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「ほめる？こう何かしてて，今までできなかったことができたりしたときに，あのー，すごいねとか，よくできたねって言ってもらうこと。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「親とか先生，友だち，習い事をしているサッカーのコーチとか，いとことか，お姉ちゃんとか，おじいちゃんとか，おばあちゃんとか。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「なんか今までできなかったことができたときとか，なんか学校でして，親とかにこういうことをしたよとか言ったら，よくやったねとかほめてくれる。」―――「他には？」―――「なんか，いとこの家でゲームとかしてて，結構すごいとこまでいったときにすごいねって言ってもらう。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―

――「コーチにすごいプレイをしたときは，普通にナイスプレイとか言われて，何かでできなかったことができたときとかは，結構すごい，すごい，すごいって言われる。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「また，ほめられるようにもっと頑張ろうとか，こうなんかサッカーをしているときに，自分がすごいって言われたら，自分はいいプレイをしたんだなって自覚できるし，自分でいいプレイなんだって思うようにする。」

5－③M「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしてすごいや上手が1番うれしいと思いましたか？―――「このすごいや上手っていうのは，認めてもらえる気がするから。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，すごいや上手って言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に，4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いまいしたか？」―――「えっと，1番一緒にいる時間が長いから。後，関係が深まっている気がするから。下級生とかは，あんまり話すことがないし，友だちは話すけどそこまでだし。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「学校の中だったら，学校の中で助けてあげたりしたら，自分も先生もいい気持になるし，親とかだったら，家とかでは，手伝いとかはするけど，そこまでしないっていうか，何か手伝ったり，助けたりすることは，学校にいるときが多いから，先生に言われるとうれしい。」―――「じゃあ，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「学校とかだったら，1番見てくれているのは友だちだし，そんなに親とかは学校にはこんし，先生はほかのとことか見とったら，そんなに見てないし，下級生と一緒にいることは少ないから，近くで見てくれとる友だちに言われたらうれしい。」―――「じゃあ，ありがとうって言ってもらったり，笑ってくれたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いまいしたか？」―――「先生とかは，ありがとうとかよりは優しいねとかの方が多いし，友だちもあまりありがとうとかは言わない。親が，ありがとうとかまたやってって笑いながら言ってくれるからうれしい。」―――「じゃあ，物をもらったときはどうですか？これは，親と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうして，親が1番うれしいと思いましたか？」―――「親とかは，いつもほしいとか言ったら買ってくれるし，遠慮とかしないから。」―――「次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」―――「はい。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「すごいとか，ありがとうとかそういうやつ。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「お父さんとか。後，友だちとかにも言われる。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「難しいことができたときとか。重い荷物を持ってあげたときとか。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「ありがとうとか。後，タッチ。お小遣いとか。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「うれしい。後，やってよかった。」―――「他には？」―――「もう一度やって，助けてあげたい。」

5－④M「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしてすごいや上手が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんかやったりしたら1番できているんだなって思えるから。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，すごいや上手って言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いまいしたか？」―――「友だちが1番仲が良いから。」―――「じゃあ，ありがとうって言ってもらったり，笑ってくれたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「1番笑いあったりしているから，その友だちにしてもらうと，認めてもらっていると思えるから。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「友だちが優しいから，優しい人に言ってもらえたら本当に優しいんだなって思えるから。」―――「じゃあ，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，友だちとかに言

われてもからかいとかに聞こえるから。親は素直にうれしい。」―――「じゃあ，物をもらったときはどうですか？これは，親と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうして親がうれしいと思いましたか？」―――「まあ，先生より勉強したり，遊んだり，親しい存在だからそういう人にしてもらうのが1番うれしい。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」―――「うん。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「できたことを認めて盛り上げる感じ。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「友だちとか，親とか，先生とか。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「すごいことをしたときとか，助けてあげたときとか。まあ，いいことしたときとか，勉強頑張ったとき。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「まあ，よくやったねとか，すごいねとか。助けてあげたときは，ありがとうとか。それくらい。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「うれしいとか，上機嫌とか。それくらい。」

5－⑤M「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして物をもらったときが1番うれしいと思いましたか？」―――「物はなくならないし，ずっと残るから言葉を言ってもらうより物質の方がうれしい。」―――「じゃあ，ここに，親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。まずは，友だちと下級生はなしで，親と先生から物をもらったときに，うれしいなって思う順番に2人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして親がうれしいと思いましたか？」―――「なんとなく。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「なんとなく。」―――「じゃあ，ありがとうって言ってもらったり，笑ってくれたときはどうですか？」―――「たぶん，全部おんなじ。」―――「全部友だちが1番うれしい？」―――「うん。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」―――「はい。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「んー，なんて言えばいいだろ。なんか，自分がすごいとか，上手とか，称えてもらうこと。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「先生，父親，友だちだけ。」―――「どんなときにほめてもらいますか？」―――「人のためになることをしたとき。テストで高い点数を取ったとき。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「ゲームを買ってもらったとき。スキーに行ったとき。後，ありがとうとか，すげっ，やばいだろとか。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「うれしい，自分のやったことを誇りに思う。」

●女児

5－①F「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして頼りになるねや優しいねが1番うれしいと思いましたか？」―――「えっと，なんだろうな，なんか，人が，自分に対してなんか1番いい感じで言ってくれてるって思うから。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，優しいねや頼りになるねって言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に，4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「え，なんか，学校の中の年上の人がほめてくれるっていうか，そういうことを言ってくれたら1，番うれしいから。」―――「じゃあ，ありがとうや笑ってくれたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「難しいなあ。友達にこうやって言ってもらったりすると，1番元気がでるから。」―――「じゃあ，すごいや上手って言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，自分の親だと信じれるっていうか，勇気がもらえるし，まあそんな感じ。」―――「じゃあ，よくがんばったねや～できるようになったんねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「自分に教えてくれた人に，認めてもらえるのがうれしいから。」―――「じゃあ，物をもらったときはどうですか？これは，親と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「先生からはめったにもらえないから，もらえたらうれしい。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」―――「うん。」―――「どんな意味か教えてくれます

か？」―――「意味？なんかできるようになってねみたいな，何かができるようになったときにしてもらうこと。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「親と先生，友だち，おばあちゃん，年上のいとことか。終わり。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「いいことをしたとき。なんか，部屋の片づけとか，おばあちゃんが洗濯をするときに大変そうだからお手伝いしたとき。後は，年上のいとことオセロをしてて勝ったとき。そんな感じ。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「よくできたねとか。」―――「他には？」―――「すごいとか，頑張ったねとか。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「オセロの場合だったら，ほかの人ともやってみたいとか。部屋の片づけだったら，うれしいとか，次からは言われずに片付けをしようとか思う。」

5－②F「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしてありがとうや笑ってくれるが1番うれしいと思いましたか？」―――「ありがとうって言ってくれると，自分でもやってよかったなって思えるから。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。この4人の人にありがとうって言ってもらったり，笑ってもらったときに，うれしいなって思う順番に4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「えっと，友だちは親とか，先生とか，下級生とかと違って，自分と同じ年の子で，だから，友だちに言ってもらった方がその分うれしい。親とか，先生とかと違って1番親しい。親は1番一緒にいるけど，友だちは親とは違って一緒に笑ったりできるから。」―――「じゃあ，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「親はいつも私の宿題とか，成績とかを見てくれたりしてくれるから。後，1番身近で自分の成長を見てくれてた人だからうれしい。」―――「じゃあ，すごいや上手って言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして下級生が1番うれしいと思いましたか？」―――「下級生は，私の上学年のところを見て言ってくれてると思うから，そういうちっちゃい子に言ってもらえると、もっと頑張ろうとか，うれしいとか，自分を1番上として，目印として，見てくれているのかなとか思うから。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「えっと，友だちは，なんか，親とかだったら，よく言われるけど，友だちが言ってくれたときが1番うれしい。」―――「親と友だちの違いってなんですか？」―――「友だちはいつも一緒に過ごしているから，友だちに言われるとうれしい。」―――「じゃあ，物をもらったときはどうですか？これは，親と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「えっと，先生は普段，教えてくれるしかしてくれないから，先生から何かもらえるとうれしい。親から何かプリントとかして，がんばったねって何かもらうよりも，教えてくれたり，話してくれたりしかしてくれない先生から何かもらった方がうれしい。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」―――「はい。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「はい。相手のしたことをすごいなとか思ってぱっと出ちゃうもの。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「多いのは，親友とか弟とか。親友は，私がぱってした感じ，ちょっと気になって普通にした感じとか，小っちゃいことでもほめてくれるから，その分少し多い。」―――「他には？」―――「親は二番目くらいで，家では，学校とは違って，そんなにやったことがないからそんなにほめてもらったことはない。」―――「それくらいかな？」―――「まあ，親友や友だち。下級生とかもたまにすごいとかほめてくれる。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「えっと，委員会とかで手伝ってあげたり，私は飼育委員会なんですけど，親友が同じ委員会で，少し時間が足りないときに手伝ってあげたり，弟は，えっと，弟が悩んでいたことを聞いてあげたりしたときにほめてもらう。親には，宿題を早くしたり，お手伝いをしたりしたときにほめててもらう。後，弟の面倒とを見てあげたとき。」―――「下級生には，どんなときにほめてもらう？」―――「下級生が気づかないところを掃除したときとか，一輪車とか，縄跳びとか，下級生の子ができないことをしたときにほめてもらう。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「ありがとうとか，がんばったねとか，すごいとか。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「うれしい，よかった，また頑張ろうとか，もっとできるかもしれないとか。」

5－③F「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねが1番うれしいと思いましたか？」―――「え，なんか頑張ったときに，友だちからほめてもらうのが1番うれしいから。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，いつも見てくれているから，そう言われるとうれしい。」―――「じゃあ，すごいや上手って言ってもらったどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「学校で，体育とかで，友だちよりうまくできたときに，言われるといい気分になるから。」―――「じゃあ，ありがとうや笑ってくれたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「親切なことをやってあげたら，友だちによく言ってもらえるから。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか，先生に，さっきとつながるんですけど，友だちに親切にしたら，先生に，友だちにやったことをほめてもらえるから。」―――「じゃあ，物をもらったときはどうですか？これは，親と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんか親から，頑張ったときに物をもらってうれしいから。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」―――「うん。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「なんか，友だちがすごいとか，自分がうれしくなることを言ってくれること。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「親とか友だちとか。」―――「他には？」―――「先生。後，塾の先生。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「親は，テストでいい点をとったときとか，学校でいいことをいたとき。先生には，授業のこととか。友だちには，友だちができなかったことができたときにほめてもらう。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「すごいねとか，よくできましたとか，うまいねとか。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「うれしくなるし，なんか，もっと友だちとかに親切にしたくなる。」―――「それは，またほめられたいから？友だちのことを思って？」―――「友だちのことを思って。」―――「他には？」―――「心が広くなる。」―――「心が広くなるって？」―――「みんなのことを思って優しくなる。」

5－④F「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねがうれしいが1番うれしいと思いましたか？」―――「え，なんだろう。1番やってよかったと思うから。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に，4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「いっつも見守ってくれているから。」―――「じゃあ，すごいねや上手だねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「友だちとかだったら，できない子がいて，それを自分ができたときに言ってもらえたらうれしいから。」―――「じゃあ，ありがとうや笑ってくれたときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「え，なんとなくだけど1番うれしい。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして下級生が1番うれしいと思いましたか？」―――「下級生に言われると，見本になっている感じがするから。」―――「じゃあ，物をもらったときはどうですか？これは，親と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「なんだろう。分かんないけど，なんとなく親がうれしい。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」―――「うん。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「意味？え，なんとなくしか分からない。」―――「なんとなくって？」―――「分かるけどうまく説明できない。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「親。妹。先生。友だち。くらい。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「テストの点数が良かったときとか，何かお手伝いとしたとき。」―――「他には？」―――「ノートのまと

め方が綺麗だったときとか，発表したときとか。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「すごいとか，頑張ったねとか，さすがとか。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「分からん。」

5－⑤F「ここに，いろいろな言葉と絵がグループに分けて置いてあります。この5つのことを，何かいいことをしたり，頑張ったときに，してもらったらうれしいなって思う順番に並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうしてよく頑張ったねや～できるようになったねが1番うれしいと思いましたか？」―――「やっぱり，この中で，1番ほめてもらってるなって思えるから1番うれしい。」―――「じゃあ，次の質問です。ここに，親，先生，友だち，下級生と書いてある4枚のカードがあります。この4人の人に，よく頑張ったねや～できるようになったねって言ってもらったときに，うれしいなって思う順番に，4人の人を並べてください。」―――並べてもらう。―――「どうして先生が1番うれしいと思いましたか？」―――「先生に，いろいろ教えてもらってるから，その先生に，～できるようになったねって言われたら1番うれしい。」―――「じゃあ，すごいや上手って言ってもらったときはどうですか？」―――並べてもらう。―――「どうして友だちが1番うれしいと思いましたか？」―――「今，学校で，プラス言葉っていうのをやってて，仲の良い友だちに，すごいとか，上手って言ってもらったらすごいうれしいし，なんか，ありがとうってなるから1番うれしい。」―――「じゃあ，頼りになるねや優しいねって言ってもらったときはどうですか？」―――「並べてもらう。」―――「どうして下級生が1番うれしいとおもいましたか？」―――「私が，高学年で5年生だし，下級生に頼りになるねとか言われたら，ここまでやってきてよかったなって思えるし，下級生のお手本になっていると思うから。」―――「じゃあ，ありがとうって言ってもらったり，笑ってくれたときはどうですか？」―――「このまま。」―――「どうして下級生が1番うれしいと思いましたか？」―――「さっきと一緒。」―――「じゃあ，，物をもらったときはどうですか？これは，親と先生だけで考えてみてください。」―――並べてもらう。―――「どうして親が1番うれしいと思いましたか？」―――「賞状もらったりするときは，あんまり先生しかそういう部分を見てくれていないけど，親に何かもらったりするのは，親が見てくれているっていうのがわかるから，親のほうがうれしい。」―――「じゃあ，次の質問です。ほめるという言葉は知っていますか？」―――「うん。」―――「どんな意味か教えてくれますか？」―――「先生とか，親とかに，自分のやったことを認めてもらうことかな。」―――「じゃあ，誰にほめてもらいますか？」―――「友だち。後，親が，私がテストで100点取ったときに，すごいねって言ってくれた。」―――「他には？」―――「それくらいかな。」―――「じゃあ，どんなときにほめてもらいますか？」―――「テストで100点取ったときとか，助けてあげたときとか。」―――「他には？」―――「それくらい。」―――「じゃあ，どんなことをしてもらったらほめてもらったと思いますか？」―――「まあ，ありがとうとか，すごいねとか。」―――「じゃあ，ほめてもらったらどんな気持ちになりますか？」―――「頑張ってよかった。友だちに，言ってもらったときは役に立ったんだなって思う。」

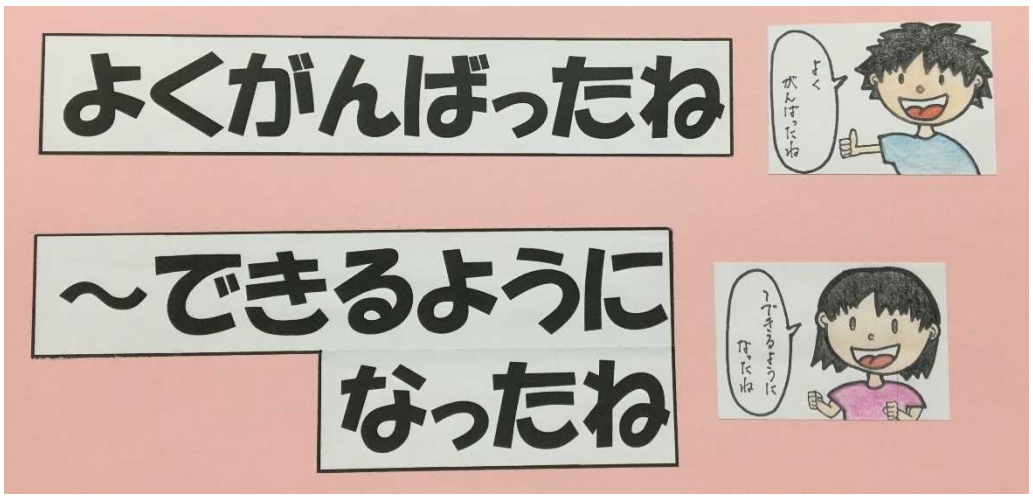
付録 2

インタビューで使用したイラスト

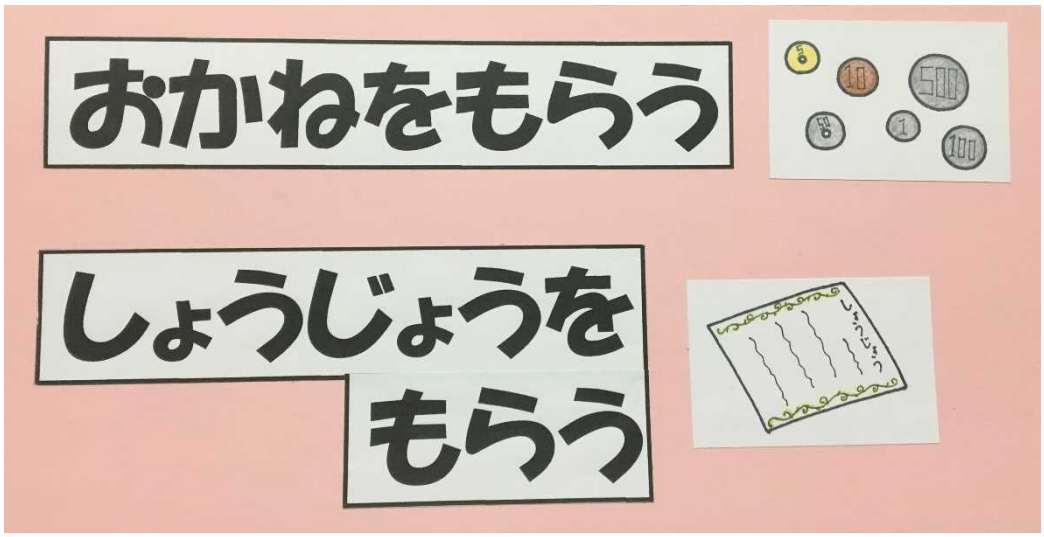
●「愛情」の「ほめ」

●「能力」の「ほめ」

●「努力」の「ほめ」



重永・田中：子どもは「ほめ」をどのようにとらえているのか

●「性格」の「ほめ」

●「物質」の「ほめ」